



非水百花譜

第九輯

大正
10. 5. 14
西文

始



あさがお (朝顔)

學名 *Platichus Nil Choisy.*
 異名 あさなくさ、かみみぐさ、しの、めぐさ、こくちゅう

漢名 牽牛子、牽牛花、勤娘子、草金鈴
 英名 Japanese Morning Glory, Imperial Morning Glory
 科名 旋花科 (Convolvaceae)

花言葉 感情、愛情

本邦に於て愛撫栽培せらるる一年生草本にして、其の原産地は今猶不明に屬すれど本種の性状より推して蓋し舊世界の熱帯地に自生せしものならむと思ふ。本邦には支那より渡來せしものなれど其の年代は分明ならず、凡そ奈良朝時代の頃と推定せられ、萬葉集のアサガハは本種にあらざるも古今集に現はれしものは全く現今のアサガハなり。而して其の當初にあつては専ら醫藥の用として供せられたるにして、種實の黒きものを貴重せり。種實の黒きはコナエツ(黒丑)と呼ばれ(白實のもの)は金に屬し功運く、黒丑は水に屬して功運なりと稱せられ所謂牽牛子(クニヨシ)と稱へて廣く栽培せられし様なり。然れども勿論當時にありては色彩も形態も頗る單純にして今日の如き珍花奇形は到底想像し能はざりしものなるべし。降て足利時代に至りては單に藥用として培養するもののみならず漸次其の花を賞美するに至り文化文政より嘉永安政の頃に至りては殆ど其の極に達せり。

本種の最も普通なる品は左巻纏繞を有し、三裂せる葉を互生す。各葉片は中央のもの最も大にして長く、橢圓形をなして基部擴大し他の二個の側裂片は之より短く三角状卵形をなす。而して各々皆銳尖頭を有し葉底は心臟形を呈せり。初夏の頃より秋期に渡りて葉面に花蕾を生ず。花は一花梗一乃至三花を着生し半披針狀鋭尖なる五片宿存性の萼あり。且茎下には小葉ありて之を護る。花蕾は合着して大形なる漏斗狀を呈し、早朝開花して日光を受くるに及ばず直に萎凋す。雄蕊五個、筒中に隠れ、先端にある短き葯のみ筒外にのみ、刺を有する花弁を蔽す。雌蕊一個、中軸線に隔障を遺して三乃至四裂片に開裂し、每室黒形薄紙狀の胚嚢をなし、種子には毒を有すと云ふ。

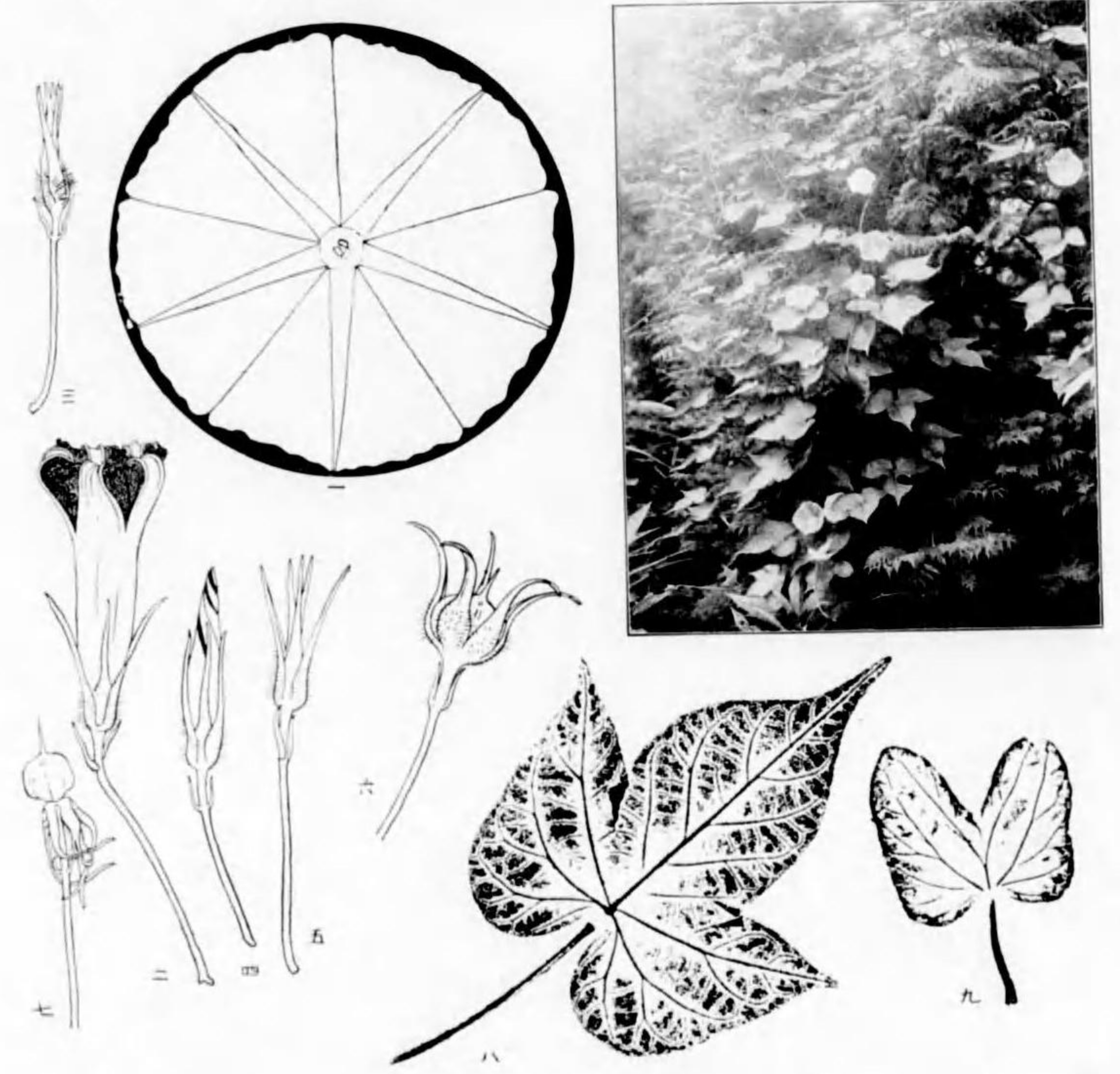
色又は褐色の二種子を蔵す。種子には毒を有すと云ふ。

本種の栽培は嘉永、安政の後を受け明治時代には再び隆盛に赴きたれば現今にては花形、葉形の頗る變化せるものありて一見、本種なるやを疑はしむるものすらあり。

備考 一、本種の原種は碧紫色のものならむと云ふ。
 二、本種に *Platichus ludensianus Choisy* (*Ipomoea ludensiana Ait.*) を當つるものあれど之はアメリカ アサガハと稱し本種に酷似すれど別種となすと至當とす。

本圖 大正九年八月十七日東京に於て寫生(自然大)
 附圖 (一)花の正面、(二)開める花、(三)四葉、(五)謝花後(六)
 (七)蒴果、(八)印葉、(九)幼葉の印葉(全部自然大)

寫真 大正九年八月東京に於て著者撮影



非水百花譜第九輯目次

- あさがほ (朝顔)
 のぶだう (野葡萄)
 てつほうゆり (鐵砲百合)
 くさけうちくたう (草夷竹桃)
 れんげう (連翹)



のぶだう(野葡萄)

學名 *Ampelopsis heterophylla* Sieb.

異名 いのぶだう、親のめつぶし、めくらぶだう

漢名 蛇葡萄

科名 葡萄科 (Vitaceae)

山野に自生せる多年性常緑灌木にして莖には長さ節を有し、長さ葉柄を有する葉を互生す。葉には二個の托葉を具へ、質薄く通常掌状に分裂し心状をなせる基脚を有すれど、或は三裂するものあり。又其の分裂も深きあり淺きありて殆ど一定せず。葉には枝より變化せる卷鬚を生ぜり。此の卷鬚は著しく接觸刺激に感應するものにして其の先端は常に回轉運動をなし支柱を得れば直ちに之を纏繞す。

夏期小形にして緑黄色の五瓣花を聚繖花序に開く。花梗には基部に小苞を有し、花筒は分離して開放せり。雄蕊五個、各分離して花筒に對生し、子房の下位にある花盤の基部に着生す。雌蕊一個、子房は上位にして二個の明瞭なる花盤上に坐し、合一せる二個の心皮よりなりて各室には二個の平行せる倒生胚珠を有す。花盤は環状又は鞘状をなし、淺裂するか又は腺を有す。果實は柔多肉質にして漿果をなし熟すれば通常碧紫色を呈すれど又紅、白紫、碧等相混交して斑點をなすものあり。毒あるが故に食ふべからず。種子は各室に二又は一個あり直立し且つ堅硬なる種殻を有す。胚乳は堅く肉質にして油を含み、内種皮は多少深く胚乳中に進入して覆膜をなす。胚は小さく眞直にして胚乳の基部にあり。

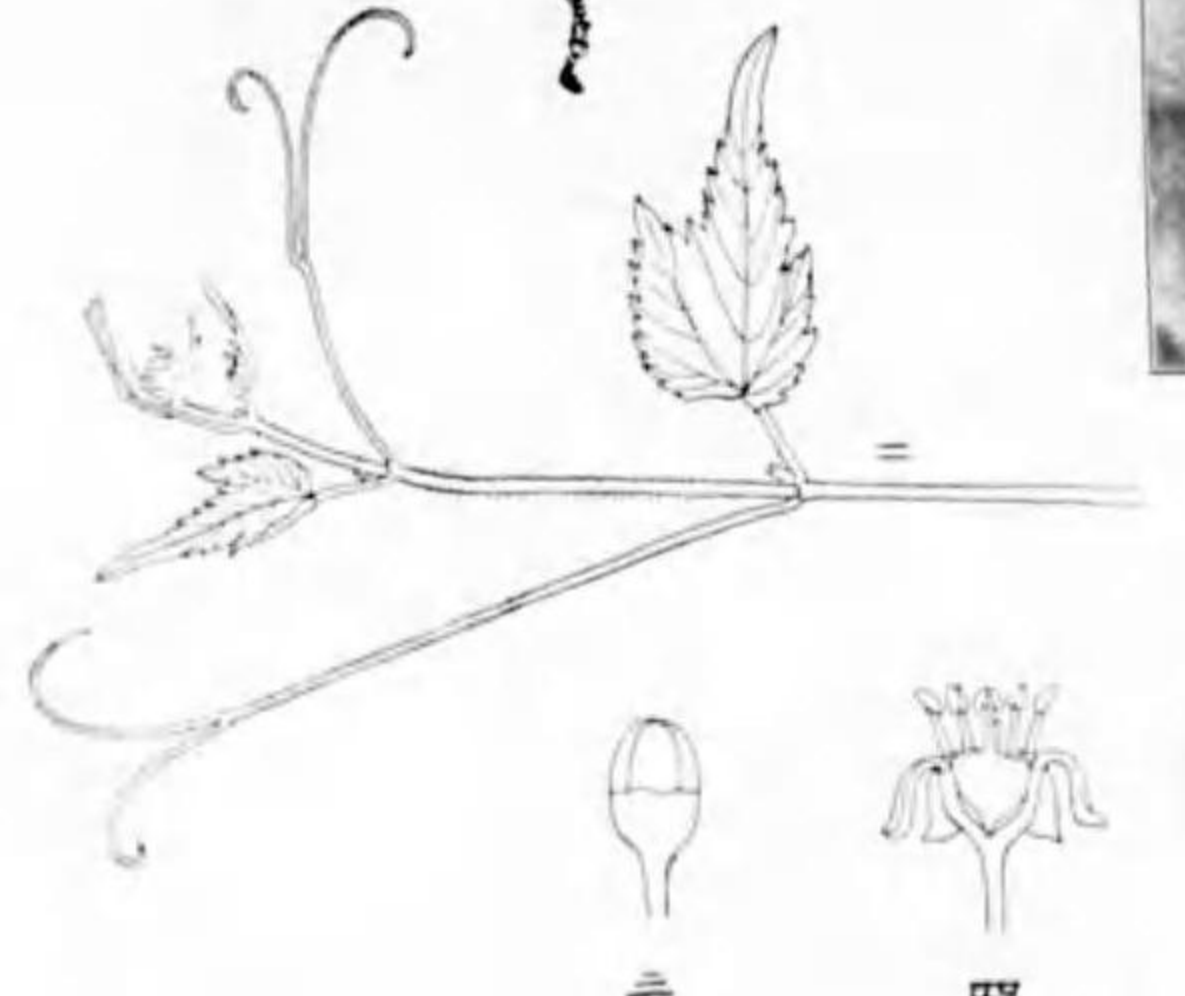
本種は概形エビヅルに似たれども彼の如く葉裏に綿毛なく又花莖は彼より短きに依り區別せらる。又人に依り本種を二種に入らざるものあり不可なり。

備考 一、*Ampelopsis* なる語は *Ampelis* (葡萄)、*Opus* (似たる) の二語よりなれるものにして概形葡萄に似たるが故に附せられたるものなり。又 *heterophylla* は各種の葉を意味す。

本圖 大正八年九月廿九日安房太海村に於て寫生(自然大)

附圖 (一) 印葉、(二) 生長點、(三) 蕾、(四) 花の側面、(五) 花の正面、(六) 聚花、(七) (四) (五) は擴大圖他は自然大

寫真 大正八年九月安房太海村に於て著者撮影





てつぼうゆり(鐵砲百合)

學名 *Lilium longiflorum* Thunb.

異名 ためともゆり、りゆうきうゆり、にはひゆり、はかたゆり、たかさこゆり、いはゆり、仙百合、麝香百合

英名 *Bernuda Lily, Easter Lily, Trumpet Lily*

科名 百合科(Liliaceae)

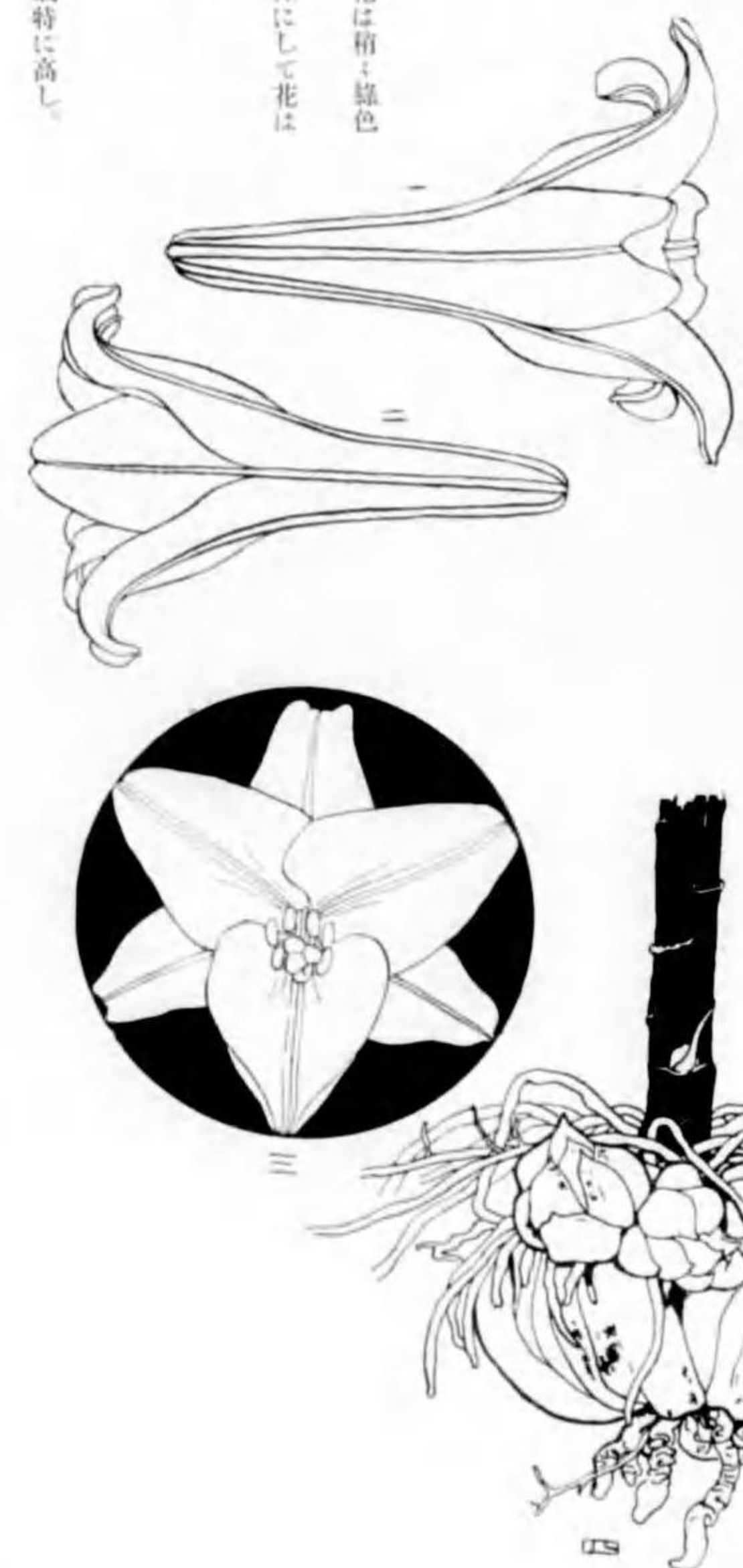
花言葉 純なる戀人

琉球、臺灣、支那に原産する多年性草本にして、莖二三尺に生育し長き披針形の平行脈葉を密に互生す。地下には鬚根を有し黄白色の多数の鱗片よりなる。

初夏の頃莖の頂端に二乃至數花を總狀に着生し、純白にして芳香に富める美花を開く。花は内外各三個の花被よりなり、其の全形は喇叭形をなせる筒狀を呈し、筒先端僅に反卷するの氣味あり。而して多くは側方、罕に斜向して開く。雄蕊六個、大なる約は其の背面の中央に於て花絲に着生し、黄色の花粉を吐く。雌蕊一個、雄蕊より長く延びて先端に大なる三棱形をなせる柱頭を有し、熟すれば粘液を分泌す。果實は蒴果にして長橢圓形をなし三裂片に胞莖裂開す。

本種は主として花の美しく香の高きにより愛敬せらるれど、又本邦輸出植物の隨一に數へらるゝものなれば東京府下、神奈川県、千葉、埼玉等にては盛に之が栽培行はる。

又本種には數多の變種ありて花葉、性質等に多少の變化を生ず。今其の主なるものを擧ぐれば、
 一、var. *giganteum* (巨輪鐵砲)、晩生種、
 二、var. *undulatum* (柳葉鐵砲)、最早生種、
 三、var. *formosum* (臺灣鐵砲)、鳥百合とも稱せられ花は稍々紅色を帯ふ、
 四、var. *aparinum* (藤鐵砲)、大鐵百合又は光葉鐵砲とも稱せられ早生種にして花は稍々垂下して開く、
 五、var. *estivum* (夏鐵砲 Lily)、ハイムズ、クラー、花附き頗る多し、
 六、var. *neohae*、前種より花高長し、
 七、var. *altes-nigriflorum* (長太郎百合)、葉に白色の斑輪あり、
 八、var. *rubro-nigriflorum* (鶴田百合)、葉に淡紅の斑輪あり、
 九、var. *Brown* (博多百合)、筒の内側淡黄にして外側は紫褐色、香氣特に高し、
 十、var. *Philippense* (高砂百合)、細葉鐵砲とも稱す。



本圖 大正八年六月廿日東京に於て寫生
 (大然自)
 附圖 (一)花の側面 (二)花の正面 (三)花の正面
 (以上縮小圖)
 四、根と莖鱗(大然自生寫日九十月八)
 大正八年六月廿日東京に於て寫
 田頭凱夫氏攝影



くさけうちくたう (草夾竹桃)

學名 *Phlox paniculata* L.

異名 おいらん草

英名 *Perennial Phlox, Garden Phlox.*

科名 花荵科 (Polenoniaceae)

花言葉 同意

北亞米利加原産の多年性草本にして莖の高さ二乃至四尺、全縁にして長橢圓形又は廣披針形の葉を對生す。

夏より秋期に渡りて莖の頂端に美しい花を偽繖花序をなして開く。花形はオシロイ花、又は櫻草に似たる五瓣の基部圓筒形をなすものにして、原種は桃色のものなりしが今は改良に改良を加へられ白色、紫色、紅色、絞り、黄色等各種の色彩を有するに至れり。

萼は宿存性にして概ね上部迄合着し、花筒の入口は狭し。雄蕊五個各花筒に互生して各々異なる高さに着生し花筒より抽出せず。花絲は絲狀にして内方に向ひ縦に裂開し、花粉は球形にし網狀の表面を有せり。雌蕊一個、絲狀をなし頂端に於て多少三裂し且つ乳頭狀の柱頭を有す。花盤は雄蕊の内部にあり。子房は上位にして基部廣大、且三個の合着せる心皮より成り三室を有す。而して其各室には一個乃至無數の胚珠ありて中軸胎座上に無柄にて倒生す。果實は單一にして蒴果狀をなし三片に胞背裂開をなす。種子は胚珠と同數、胚は眞直にして中央にあり。胚乳により包まれ。且つ平滑にして稍々肥厚し廣大なる子葉を有す。

花の美しきにより専ら觀賞用として栽培せられ近年は花壇用又は切花用として需要多し。

備考

一、*Phlox* は火炎を意味し、花の美しき色彩に依り此の名を生ぜしならむ。 *Paniculata* は圓錐花 (*Panicle*) より來りしものなり。

本圖 大正九年七月二十日東京に於て寫生 (自然大)

附圖 (一)花の正面、(二)花の側面、(三) (四)蕾、(五)印葉、(全部自然大)

寫真 大正九年七月東京に於て著者撮影



五



桃竹葉草
 京都府京都市
 大倉半兵衛
 山田菊治
 春島行
 四國通商銀行

れんげう (連翹)

學名 *Forsythia suspensa* Vahl.

異名 いたちくさ、いたちはせ、はたけくさ

漢名 連翹

英名 Golden Bell

科名 木犀科 (Oleaceae)

もと支那に自生せる落葉灌木にして葉の高さ一丈餘に達し、先端は稍彎曲状を呈するを常とす。樹勢旺なるは一年にして八九尺の新梢を出すものあり。葉は對生し通常三個の小葉より成れる複葉にして、各小葉は卵形を呈し鋸齒を有す。又時に單葉をなす事もあり。早春葉の開綻に先ちて黄色四瓣の花を多数に着生す。花瓣は合着して筒状をなし深く四裂す。而して其の筒状部は短く廣くして裂片の長さを普通とし、又該裂片は幼時丸状をなす。雄蕊は二個にして心皮と互生し、花冠上に着生し短小花柄と大なる筒とより成る。雌蕊は一にして花柱は短く、柱頭は肥厚し且つ二分す。子房は一室にして合一せる二個の心皮より成り胚珠は室の頂端より懸垂す。果實は蒴果にして胞背裂開をなし、内に翅を有する種子を藏す。本種は花の美しさに依り觀賞用として各地の庭園に培養せられ、又切花として生花用に賣れる。

備考

一、學名なる *Forsythia* はケンシントンなる皇室園藝技師フォースティス氏 (Mr. Forsthal) の名譽の爲に名づけられしものにして、*Fortis* は兼下せるを意味す。
 一、本種に *Forsythia kumagaii* なる學名を用ふるものあり。



〔大然自〕生寫て於に京東日七十月三年八正大 圖 本
 面側の花(三) 面背の花(二) 面正の花(一) 圖 附
 (大然自部全) 葉印(五)(四)
 影撮著て於に京東月三年八正大 眞 寫





連
第 大倉半兵衛
朝 桃圃巳之吉撰
春陽堂發行
四庫全書

終